

第44回沖縄県高等学校総合文祭弁論部門大会（動画審査）決勝講評

沖縄県高等学校文化連盟弁論専門部

部長 本原 泉（公印省略）

決勝審査員（※五十音順）

- ・ 安里 努（沖縄タイムス社編集局社会部 NIE 事業推進室事務局長）
- ・ 岸本 悦子（元沖縄県高等学校文化連盟弁論専門部部長）
- ・ 小山 康昭（琉球放送株式会社元アナウンス室長）
- ・ 高江洲 洋子（琉球新報社編集局文化部部長）
- ・ 西川 龍一（NHK沖縄放送局副局長）
- ・ 根路銘 敦（那覇東ロータリークラブ理事）
- ・ 保坂 雅子（琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門特命准教授）

**※審査員長 小山康昭 様による審査講評動画を、「弁論動画提出用」Teams に UP します。
どうぞご覧下さい。**

- ・ カメラの前で、観衆がいない、反応がない状況で話に入るのは、タイミングが難しい。そんな状況の中で意見を述べることは大変だったと思う。審査する上でもこれまでの大会と違い、苦労があった。
- ・ 演題が中身に結び付けられていないため、ピンとこないものもあった。
- ・ 自分の体験なのに具体性に欠ける人もいて、少しもったいなかった。
- ・ 去年と比べまとも過ぎていて、未来の話とか若者らしい夢のある人がもう少し多くてもいい。
- ・ 伝えたい気持ちが強く出ていた弁士が、内容、表現ともに強いものがあり、上位に入っている印象。
- ・ 決勝の弁士でも原稿に目を落とす人が多かった。
- ・ 自分たちの問題意識から視野を世界に広げている、普遍的な話題 SNS を通じて発信していると感じた。そういう人が説得力はあると感じた。
- ・ 表現の部分では差がなかったが、大会に向けての練習時間がなかったのかなと感じた。クラス、学年、全体と聴衆の前での発表が少なかったためか、目線や姿勢など演台の利用を意識した弁士とそうでない弁士との差があった。論旨の部分では参加者の差があった。
- ・ 思ったよりコロナの話題がなかった。